

時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
1 年 ~ 1.5 年後	利用候補として選定した家屋について、権利関係や財務的内容が検証できている。	PT	・ 利用候補とする家屋を選定する。 ・ 商業者（NPO 含む）などから家屋運用の担い手を決める（できれば PT を中心に市民の手で運営できることが望ましい）	・ 選定はあくまでも PT 主導で、相手がある事なので、トラブルが起きないように、また永年に渡って維持できるように要素を洗い出して詰めていく。 ・ 実際に利用できる家屋と方針を決めていく際に、その後の具体的運用についての専従者の選定が必要となる。
		行政	・ 契約業務にあたってのリ - ガルチェックと財務的補助を行う。	
1.5 年 ~ 2 年後	対象家屋整備に対する予算・運営者・運営方針・利用対象者などが決定している。	PT	・ 対象家屋の安全性確保（建基・防犯・防災）の為に調査と改装項目の洗い出しを行う。 ・ 運営に携わるスタッフ（団体）との協議を通じて運営計画を策定する。 ・ PR 活動に対する素案を策定する。	・ 市内の専門業者とタイアップし、技術的なアドバイスをもらい、事業予算を計画する。
		行政	・ 出そろった案（インフラ面・財務面）に対し、行政がどこまで補助できるのかを協議する。 ・ 同時に予算全体についての最終案の採択と予算付けを行う（補助以外にも協賛団体を募る・クラウドファンディングなど）	

（参考）

時点	段階	取り組み等	
2 年 ~ 3 年後	対象家屋の 整備期間	PT	・ 整備期間中の管理と各種許認可関係確認。 ・ スタッフ募集と各種 PR 策の完成・配布（PR 誌は分かりやすく誤解を招かないものに）
		商業者	・ 工務店は実際の工事。 ・ 運営者は運営計画の見直しと各種申請。
		行政	・ 予算の申請と担当グループへの移管及び役所内や他の関連団体との連携体制を構築する。

時点	段階	取り組み等	
3 年 ~ 4 年後	試験的運用開始	PT	・ 専門運営者以外にもボランティアを募り、安全確保と守秘義務を最優先としながら、出来るだけ永くかつ安価な運営ができる体制を模索する。
		商業者	・ 商売として成り立つことは難しいので、PT を中心として市民が運営を主に行う中、専門家としてのアドバイスと手助けを行う。
		行政	・ 引き続き誘致と他団体との連携を受け持つ。
4 年 ~ 5 年後	本格運営開始	PT	・ 発生する費用の予算付け。 ・ 各パートの責任者決定と配置。 ・ 長期運営するための他団体との契約や相互理解の上での人員提携等。 ・ 各種トラブルに対するマニュアル策定。 ・ 行政窓口との定期連絡協議会設置。 ・ 利用者の意見をお聞きする「目安チーム」を設置し（場合によっては外部専門家）、トラブルや事故を未然に防げる体制を構築。 ・ 第 2 の施設を模索 → モデルケースとなり他市他県からも視察に来るようなことになればうれしい！ ・ 「施設（場所）さえ見つければ運営はやります」という団体があるので、当初から関係団体への声掛け・相談は欠かさないこと。 ・ あくまでも市民の取り組みなので、 - 予算を安価に抑えること - 一部のスタッフに負担が集中しないこと - 長く続くこと - 永続的に行政からの支援が得られること - 興味を持っていただく方が右肩上がりに増えること（←ここが肝要；子育て世代にとって魅力ある都市にすることが最大の目的のため、そのプロセスとして） - この取り組みが拡大増加すること - 関係者全員が Win Win の関係となり、他の課題にも派生できる取り組みとなること 等々